

平成30年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	有田町立有田中学校		
2 所在地	佐賀県西松浦郡有田町岩谷川内3丁目6番1号		
3 校長名	中島 尚		
4 学級数 児童生徒数	11学級 291人	5 実施学年 児童生徒数	全学年 291人

6 取組のねらい

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりを進めていけば、多様な個性を理解し、思いやる心を育むのではないかと考え本研究に取り組んだ。

7 取組の実際

(1) 授業の組立の工夫

生徒が主体的に学ぶ授業づくりを行うため、次のように取り組んだ

授業の見通しを持たせるための「めあて」の提示

一時間の授業の中で、つけさせたい力を明確にし、生徒に学習の見通しを持たせ、意欲を高めるため、生徒に分かりやすい「学習のめあて」の提示を行った。

班での学習活動を取り入れた授業づくり

生徒が、相手の考えを理解しながら、授業内容をより深く理解するため、道徳や各教科の授業等において、生徒同士の対話を重視した授業づくりを目指した。



班での学習活動の様子

視覚化を生かした授業づくり

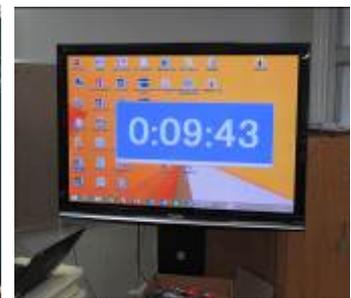
生徒に視覚的な情報を提示しながら理解を深めさせるため、各教科において積極的な電子黒板の活用や道徳の授業において、生徒の本音を視覚的にとらえるための「心情円盤カード」や「心情ものさし」の活用を行った。また、活動時間を明確にするためタイマーを用いた授業を行った。



電子黒板を活用した授業の様子



心情ものさしを取り入れた授業の様子



タイマーを用いた授業の様子

(2) 環境整備

生徒一人ひとりにとって学びやすく過ごしやすい環境にするために教室の掲示方法において、前面黒板の上部には、掲示物を貼らないように共通理解を図った。



机や椅子を引きずる音などが苦痛な騒音になる生徒もいるため机や椅子の足にフェルトをつけて騒音を減らした。

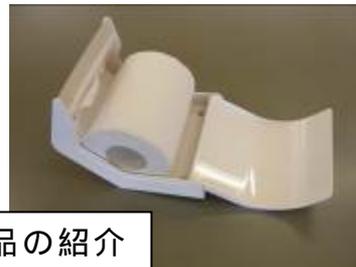


道具の片づけの場所を視覚化した。



(3) 技術・家庭科(技術分野)によるユニバーサルデザインを取り入れた設計の取組

「材料と加工」領域において、設計の進め方の授業の中でユニバーサルデザインを取り入れて製品を紹介し、自分が作る製品にユニバーサルデザインを取り入れる指導が行われた。その結果、丸みをもたせ安全性を重視した製品や使いやすさを追求した製品が製作された。



ユニバーサルデザインを取り入れた製品の紹介



生徒作品

8 取組の成果と課題

授業の組立について

授業の見通してを持たせるための「めあて」の掲示については、ほとんどの授業で実施された。しかし、振り返りやまとめについては、全教科で実施されているとはいえない。今後は、「めあて」と同様に授業の振り返りも大切であることを全職員で共通理解しながら取り組んでいきたい。

班での学習活動を取り入れた授業については、ほとんどの授業でペア学習や班での学び合いの活動が実施された。しかし、現状を見ると自分の考えを表現することが苦手な生徒もいる。今後もＴＴによる授業や対話を取り入れた道徳の授業を展開し、生徒の表現力や活用等を高めていきたい。

視覚化を生かした授業づくりについては、ほとんどの教科において、電子黒板等の視聴覚機器を積極的に活用されていた。今後も生徒の学習内容のさらなる理解を深めるために視覚的な情報を有効活用していきたい。

環境に整備について

昨年度、教室前黒板の上には何も掲示しないクラスが８割であったが今年度は全てのクラスで達成することができた。騒音防止の机、椅子の足の裏のフェルトつけは普通教室では、全て達成できている。来年度は、特別教室において同様な作業を実施していきたい。

○道徳性検査教研式 HUMAN の結果から

30年11月に実施したHUMANの内容項目「思いやり」において、「思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。」と答えた生徒は、全国1年生平均36%に対して、本校1年生37%、全国2年生平均30%に対して、本校2年生41%であった。また「相手の立場をあまり考えず、親切さに欠ける行動をしやすい」と答えた生徒は、全国1年生平均7%に対して本校1年生4%、全国2年生平均11%に対して、本校2年生7%であった。この結果から全国平均よりもよい傾向にある。今後さらにUD教育を充実させながら、相手を尊重する心や思いやりの心を育てていきたい。